

浅間山

八風山

香坂山遺跡

写真：大場正善氏撮影

# 香坂山遺跡の第1次発掘調査

令和2年8月 国武 貞克（独立行政法人国立文化財機構奈良文化財研究所）

## 【調査のねらい】

- ・日本列島における石刃生産技術の発生過程が、中央アジアから東アジアに至るユーラシアの同時期の石器群の発展と、どのような関係にあるのか解明することが最終的な目標です。
- ・このため石刃遺跡として最古の年代が得られた香坂山遺跡（長野県佐久市）で炭化物を採取し、列島の石刃生産技術の発生年代を精確に解明します。
- ・あわせて、最古の石刃石器群に関わる新資料を入手し、この時期の石器製作技術や技術組成を解明します。

【日本学術振興会科学研究費補助金（基盤研究B 代表国武19H01354）による調査です】



遺跡の位置 (赤丸)



始良Tn火山灰 (約3万年前)

↑ 石器包含層

遺跡の土層の堆積状況



香坂山遺跡は上信越自動車道の立坑地上施設の建設に伴い、平成9年に長野県埋蔵文化財センターによって発掘調査され、大型石刃を含む旧石器が390点発見されて、36,029-35,058 cal BPの年代が得られています。今回の調査ではその隣接地を発掘しました。



写真：大場氏

今回の発掘調査では、石器は約3万年前の始良Tn火山灰の約50cm下位から約150点出土しました。



八ヶ岳第4軽石(YPm-IV;34kaBP)を含む地層に石器が包含されます；右半分で黒曜石の小石刃が出土



黒曜石の石刃が出土しました



黒曜石の石刃の出土状況です



近くの沢の軟質な安山岩を使って礫器を作っています



小型の尖頭形石器も出土しました



大型の礫器が弧状に配置されています。弧状配石の底面が当時の生活面とみられます



弧状配石のなかには頁岩製の石核もみられます



出土した黒曜石の石刃と小石刃です

### 【わかったこと；新しい技術】

- ・後期旧石器時代の初めに、本格的な小石刃を使っていたこと。
- ・礫器を使って何かの作業をしていたこと。

### 【これからの課題；年代の確定】

- ・3万4千年前の八ヶ岳由来の軽石と石器が含まれる地層との関係を調べます。
- ・焚火に由来すると思われる炭化した木材片を約200点見つけたので、高精度な放射性炭素年代測定分析を実施します。



堤隆氏と須藤隆司氏に調査ご指導を頂きました